Rehabilitation SAKAI

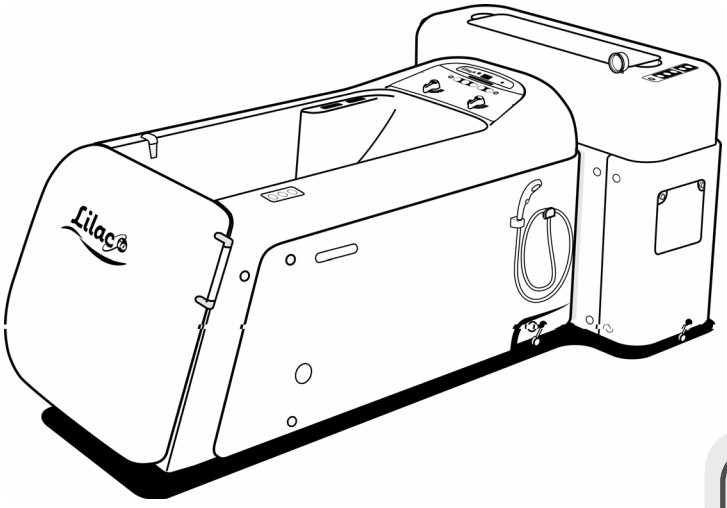
取扱説明書

Lilac io

コンパクト座位浴槽 ライラック イオ

R／Lタイプ

LA−400H



✱このたびは、お買い上げいただき、まことにありがとうございます。

✱正しく安全にお使いいただくため、ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みください。

✱「取扱説明書」はいつでも使用できるように、見やすい所に大切に保管してください。

保存用

01-112⑧G5

Rehabilitation SAKAI

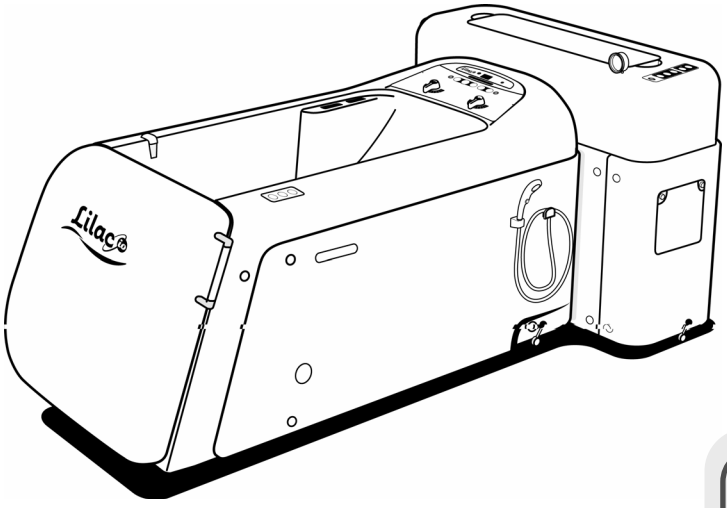
取扱説明書

Lilac io

コンパクト座位浴槽 ライラック イオ

R／Lタイプ

LA−400H



✱このたびは、お買い上げいただき、まことにありがとうございます。

✱正しく安全にお使いいただくため、ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みください。

✱「取扱説明書」はいつでも使用できるように、見やすい所に大切に保管してください。

現場用

01-112⑧G5

もくじ

安全上のご注意 …… 3
各部の名称 …… 8
　各操作パネルの働き …… 9
組み合わせ …… 10
ご使用になる前に …… 11
　電源 …… 11
　入浴剤・薬液の使用 …… 11
　給湯水圧 …… 11
各部の操作 …… 12
　タンクへの給湯操作 …… 12
　扉の開閉操作 …… 13
　浴槽 ⇔ 貯湯タンク間の送湯 …… 14
　差し湯操作 …… 16
　バブラー操作 …… 16
　シャワー操作 …… 17
　排水 …… 18
　ろ過装置の操作 …… 18
　塩素殺菌装置の操作 …… 19
　非常時の操作 …… 23
入浴・出浴の手順 …… 24
入浴終了後の操作 …… 28
お手入れの仕方 …… 29
このようなときには …… 30
機器の保守・点検について …… 31
保証とアフターサービス …… 32
仕 様 …… 33

用途

本製品は介護を必要とする方の入浴を車椅子に座ったままの状態で安全に行うことを目的とした入浴装置です。

特長

- **介護の省労力化を図りました。**
  半自動開閉式の扉とスロープ台を必要としない入浴方式を採用。
- **むだのないコンパクトな設計。**
  リクライニングタイプながら省スペース化を実現しました。
- **安全面・衛生面の向上を図りました。**
  湯温管理システム・水処理システムの内蔵。

安全上のご注意

本製品を安全に正しくご使用していただくために、各注意事項をよくお読みのうえ、必ずお守りください。

注意事項を次のように区分しています。

危険 ・・・ 取り扱いを誤ると、死亡または重傷を負うことに至るもの

警告 ・・・ 取り扱いを誤ると、死亡または重傷を負う可能性が想定されるもの

注意 ・・・ 取り扱いを誤ると、傷害または物的損害の発生が想定されるもの

絵表示の意味

禁　止：してはいけない「禁止」内容のものです。

強　制：必ず実行していただく「指示」内容のものです。

電源・給湯水圧・その他

警告

サービスマン以外は、電源の接続を行わない

正しく接続しないと故障や事故の原因になります。

サービスマン以外は、給湯水の接続を行わない

正しく接続しないと水もれ等の故障や事故の原因になります。

適正圧力及び圧力比範囲となるよう管理

適正範囲を外れると、給湯やシャワーの湯温が急変することがあり、入浴者及び介助者がやけどをする恐れがあります。(P.11 参照)

注意

使用電圧は 3 相 200 V ±5%の範囲内で使用する

範囲外の場合には機器の故障及び誤作動の原因となります。

この製品は、一部に天然ゴムを使用しています

かゆみ、発赤、蕁麻疹、むくみ、発熱、呼吸困難、喘息様症状、血圧低下、ショックなどのアレルギー性症状をまれに起こすことがあります。このような症状を起こした場合には、直ちに使用を中止し、医師に相談し、適切な措置を施してください。

⚠ 危険

次亜塩素酸ナトリウムは酸性の製品の近くに置いたり、一緒に用いない

人体に有害な塩素ガス等の発生の恐れがあります。万が一塩素ガスを吸込んだ場合は、直ちに医師の診察を受けてください。

⚠ 警告

誤って薬液を飲んだり、目に入った場合は、応急処置後、医師に相談する

- 万一飲み込んだときは吐かせずに多量の水や牛乳を飲ませ、「次亜塩素酸ナトリウム」を飲んだと云って医師にご相談してください。
- 万一目に入ったときはすぐにきれいな水で 15 分以上洗い流し、医師の診察を受けてください。

⚠ 注意

当社指定外の薬液を使用しない

イオウ系の薬液等は浴槽の金属部や電気部品、ゴム部品等を腐食させます。ご使用になり装置が故障した場合は、保証期間内の製品でも、保証対象となりませんのでご注意ください。

薬液補充の際は注意する

- 十分に換気を行い、保護具（ゴム手袋）を使用してください。
- 各注意事項をお守りください。
- 周囲に薬液がこぼれた場合は水でよく洗い流してください。床やフレーム等の変色や錆の原因となります。
- 空の容器は、よく洗い流して処理してください。

補充薬液は濃度が 1.5%のものを使用する

濃度が異なりますと殺菌効果への影響や、機器の故障につながります。

使用期限内のものを使用する

薬液は、経時変化により殺菌効果が弱くなりますので、容器に表示されている使用期限内でご使用ください。

薬液が誤って人体または衣服についた場合は、すぐにきれいな水で洗い流す

液が皮膚についたときはぬめり感がなくなるまで洗い流してください。

薬液の排出の際は注意する

- 十分に換気を行い、保護具（ゴム手袋）を使用してください。
- 排出する薬液は濃度を水で十分に薄めてから処理してください。

着色性及びイオウ成分の入った入浴剤は、使用しない

ご使用になると、よごれを落としにくくなったり、金属の腐食等を起こす恐れがあります。

⚠ 警告

送湯中や入浴中の入浴者の状態に注意

水没等がないように、常に看視してください。

扉を閉じるときは挟み込みに注意

入浴者の足先や手先が挟み込まれると、けがをする恐れがあります。

扉を開閉するときは周囲を確認し、入浴者の手足に注意

扉の動作範囲内に人や障害物があると、事故の原因となります。また、足先や手先が挟まれると、けがをする恐れがあります。

車椅子を進入させるときは、入浴者の足元に注意

- 入浴者の足がフットレストからおちていると浴槽進入時に浴槽に足をぶつけ、けがをする恐れがあります。
- 入浴者の足先がフットレストからおちていると底面シールに挟み込まれて、けがをする恐れがあります。

非常時の扉フックを解除する前に必ず浴槽内の湯を完全に排水する

浴槽内に湯があると水圧で扉が勢いよく開いたり、多量の湯が一度に放出され危険です。また、停電や装置の故障時以外は、危険ですので操作しないでください。

急速排水するときは、急激な湯の流出に注意

浴槽底面から多量の湯が一度に放出されるので、入浴者の状態や介助者の足元に注意してください。

リクライニング角度を 13 ° (洗髪作業など)で使用するときは注意

頭部に力をかけたり、足を持ち上げたりすると転倒する恐れがあります。

⚠ 注意

扉に無理な力をかけない

無理に開閉したり、開いた扉にぶらさがったりすると、破損する恐れがあります。

入浴しないときは、入浴休止・終了の操作をする

長時間シールしたまま放置すると、シール性が低下して水漏れする恐れがあります。

急速排水するときは、あふれないように注意

狭い浴室や出入口が近くにある場合などは、隣室に排水があふれる恐れがあります。

失禁等の場合、排泄物を取り除いてから排水する

排泄物を取らないと排水管が詰まり、排水があふれる恐れがあります。また、衛生管理上や配管の目詰まり防止のため、湯はタンクに戻さず排水してください。

急速排水の完了を確認してから扉を開ける

浴槽に湯が残っていると浴室に流れ出し、事故の原因となります。

⚠ 警告

送湯前に、必ず手と温度計で貯湯タンクの湯温を確認

確認しないで入浴スイッチを押すと、温度センサー等が故障した場合、高温の湯が止まらないで浴槽に送湯され、入浴者にやけどを負わせる恐れがあります。特に、**午前又は午後の最初の入浴者の場合**は、必ず貯湯タンクの蓋を開けて手で湯温を確認してください。

半ドア警告ランプが点滅し送湯が停止したら、入浴者を浴槽外に出す

出さないまま入浴スイッチを何度も押すと、高温で浴槽に送湯されて入浴者がやけどをする恐れがあります。

浴槽→貯湯タンクに送湯するときは、差し湯を止める

差し湯を高温にしている場合があり、浴槽内の湯が少なくなると入浴者に直接かかり、やけどをする恐れがあります。

差し湯をするときは、給湯温度計と手で湯温を確認

熱いと、やけどをする恐れがあります。また湯の出し始めや温度設定をした後は温度が安定していない場合があるので、しばらく湯を流して、温度を確認してください。

シャワーを入浴者にかける前だけでなく使用中も絶えず手で温度を確認

- 熱い湯が配管内に溜まっている場合がありますので、確認する前に安全な所に吐水して、最初の湯は捨ててください。
- 温度調節ノブを回した後、湯温が設定温度になるまでに数秒かかりますので注意してください。
- 温度調節ノブで温度調節した後でも、給湯・給水の水圧の急変により、シャワーの温度が急に変わることがありますので常に手で湯温を確認してください。

給湯ミキシングはゆっくり回す

急に回すと温度が急激に変化し、やけどをする恐れがあります。

シャワーをかけたままにして入浴者から離れない

介助者が離れている間に温度が急変し、やけどをする恐れがあります。

高温でお湯を使用した後は、必ず給湯ミキシングを元に戻す

そのままにしますと、次に使用するときにやけどをする恐れがありますので、低温側に回して、しばらく湯を流してください。

⚠ 注意

貯湯タンク→浴槽へ送湯中に停止したとき扉を開く場合は、流れ出る湯に注意

湯がかかるとやけどする恐れがあります。

浴槽へ送湯するときは、タンクの蓋の上に物を置かない

蓋の上の物が吸い込まれる恐れがあります。

差し湯が終わった後は、必ず給湯ミキシングを適温に戻す

給湯ミキシングは差し湯と貯湯タンクの給湯温度の調節を兼用しています。差し湯で温度を高く設定して入浴を繰り返していると、湯温が上昇する場合があります。

使用後は給湯・シャワー切替レバーで湯を止めてから、シャワーホース内の加圧水をすてる

手元ボタンのみでシャワーの ON/OFF 操作を行っていると、シャワーヘッドの寿命が短くなります。またホース内に加圧された水を残こしたままにすると故障の原因になります。

入浴者の車椅子上への移乗と車椅子での移動

⚠ 警告

車椅子上へ移乗させるときは、キャスターを必ずロック

ロックしていないと、車椅子が移動し事故の原因になります。

車椅子に乗せたら、必ず手すりを握らせ、ひじを手すりの内側に入れ、安全ベルトを使用する

- 握っていないと上肢が車椅子の外側に出てけがをする恐れがあります。握れない入浴者の場合には、上肢を保持するベルトなどを用いるなどして、上肢が車椅子の外側に出ないようにしてください。
- ベルトをしなかったり、ベルトをゆるめ過ぎるなど固定が適切でないと、身体がずれて落下したり、ベルトの端面やバックルで擦れてけがをする恐れがあります。

安全ベルトを外したときには、入浴者のそばから絶対に離れない

洗身などのためにやむを得ず外した場合、落下する恐れがありますので、洗身後は直ぐに安全ベルトを再装着してください。

入浴者をフットレストの上に立たせない

車椅子後部が浮き上がり非常に危険です。

車椅子を移動するときは、浴室の排水溝蓋の隙間等に注意

キャスターが隙間等に挟まると、車椅子が傾いたり、転倒する恐れがあります。

⚠ 注意

車椅子の移動は、ゆっくり

入浴者に不安感を与えないようにゆっくり行ってください。特に、強い力で車椅子を押し引きして手を離したりせず、必ず最後まで手を添えて移動を行ってください。

車椅子との接触に注意

入浴者の移乗のときや、車椅子から立たせた後に車椅子を移動させるときに、車椅子との接触で思わぬけがをする場合がありますので注意してください。

ご使用後

⚠ 注意

操作スイッチにシャワー等で水をかけない

水がかかると電気系統の故障の原因になります。

シール部に挟まった毛髪やごみは取り除く

挟まったまま使用すると、水漏れの恐れがあります。

使用後は、扉シール及び底面シールを作動させない

車椅子を浴槽内に入れ長時間シールしたまま放置すると、シール性が低下して水漏れする恐れがあります。

使用後は、必ずタンク内の湯を排水する

水垢などがタンク内面にこびりつき、汚れが落ちにくくなります。

使用後は、必ず換気を行い室内の湿度を下げる

湿気による錆やかびなどの発生を抑えます。

使用後は必ず電源を切り、電源ランプが消えていることを確認する

事故を防止します。

納入時のビニールカバーは、破棄する

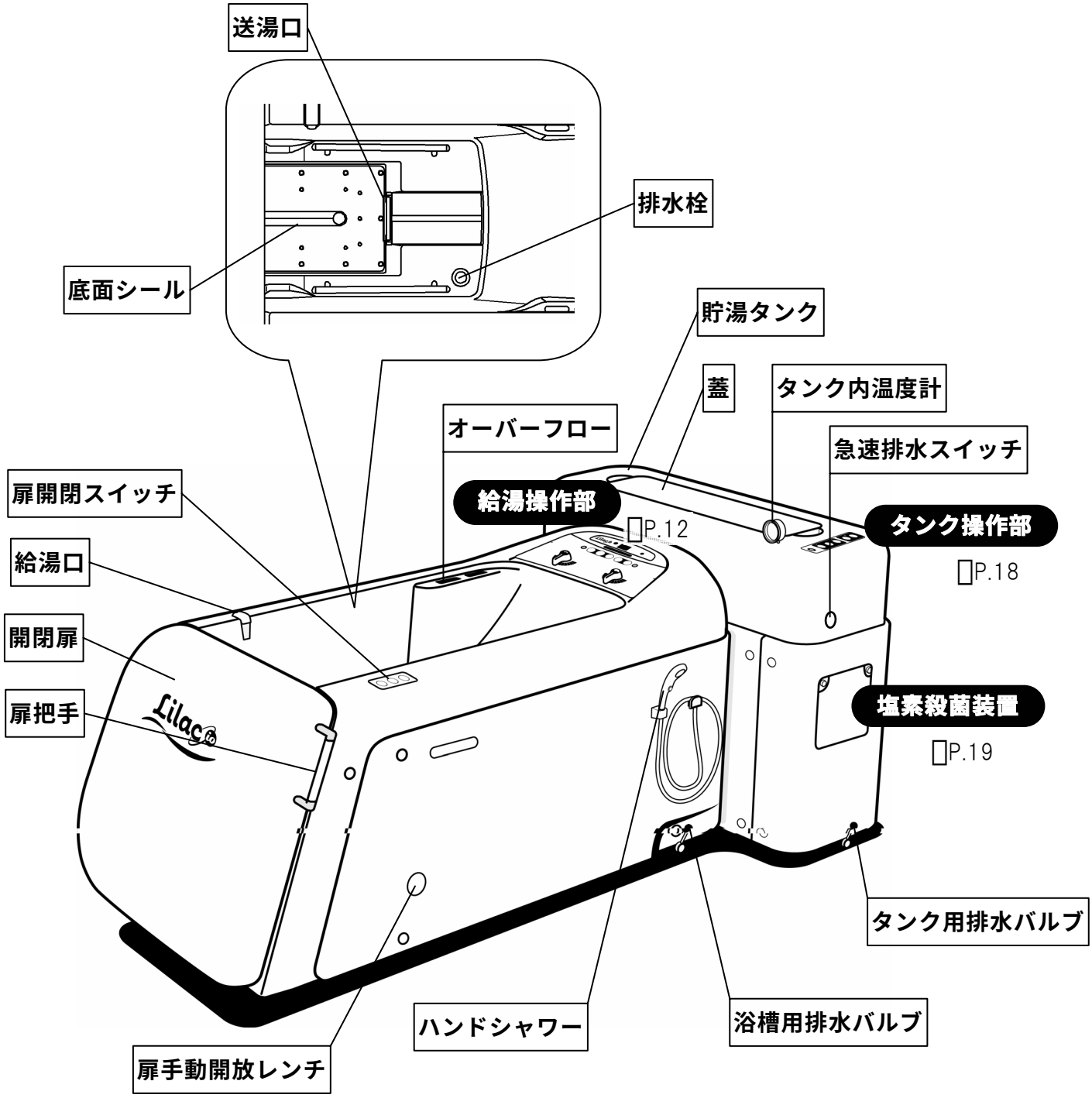
製品にかけて使用すると、錆などが発生しやすくなるので、絶対に使用しないでください。

必ず付属のシリコングリスを使用する

他のグリスを使用すると、故障の原因になります。

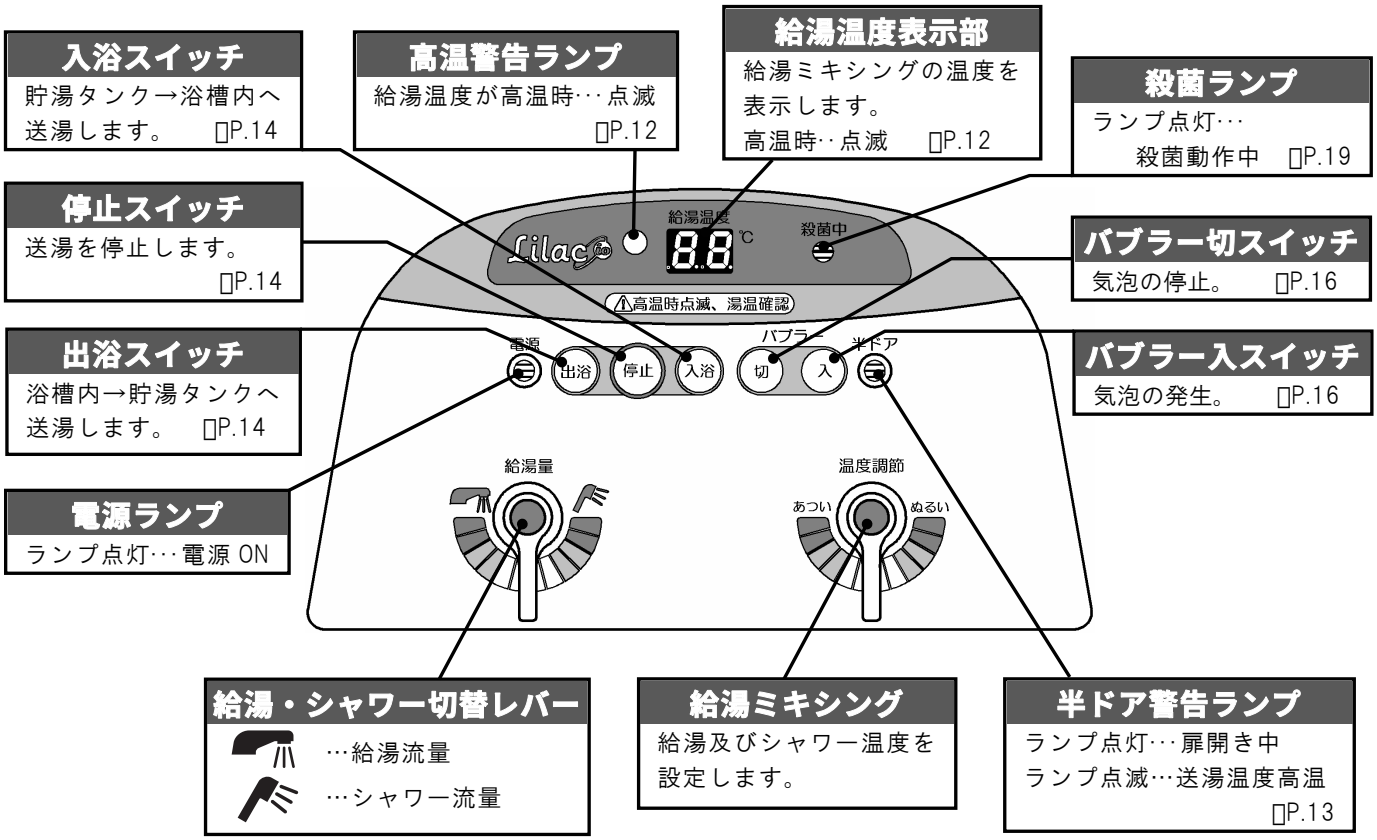
各部の名称

● 浴槽：LA-400H　(図は LA-400LH)



各操作パネルの働き

● 浴槽操作部



入浴スイッチ
貯湯タンク→浴槽内へ送湯します。 P.14

高温警告ランプ
給湯温度が高温時･･･点滅 P.12

給湯温度表示部
給湯ミキシングの温度を表示します。
高温時･･点滅 P.12

殺菌ランプ
ランプ点灯･･･
殺菌動作中 P.19

停止スイッチ
送湯を停止します。 P.14

バブラー切スイッチ
気泡の停止。 P.16

出浴スイッチ
浴槽内→貯湯タンクへ送湯します。 P.14

バブラー入スイッチ
気泡の発生。 P.16

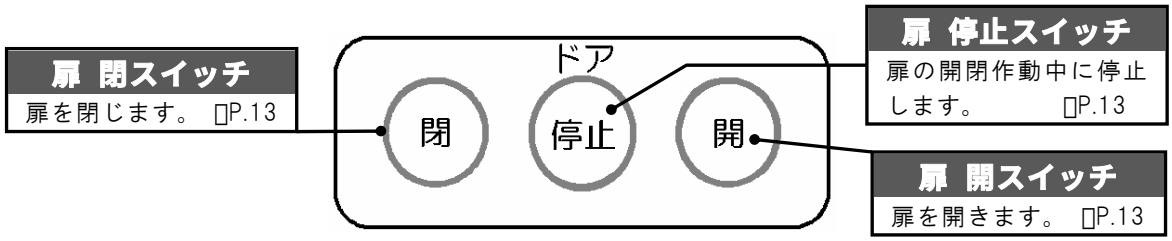
電源ランプ
ランプ点灯･･･電源 ON

給湯・シャワー切替レバー
…給湯流量
…シャワー流量

給湯ミキシング
給湯及びシャワー温度を設定します。

半ドア警告ランプ
ランプ点灯･･･扉開き中
ランプ点滅…送湯温度高温 P.13

● 扉開閉スイッチ

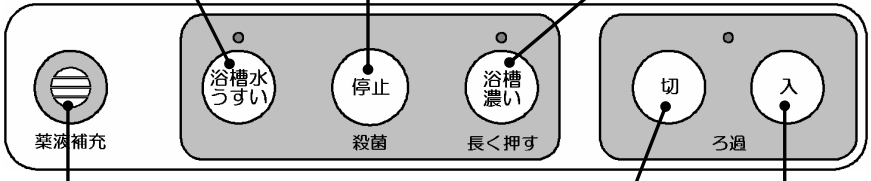


扉 閉スイッチ
扉を閉じます。 P.13

扉 停止スイッチ
扉の開閉作動中に停止します。 P.13

扉 開スイッチ
扉を開きます。 P.13

● タンク操作部



浴槽水殺菌スイッチ
浴槽水の殺菌スイッチ。 P.20

殺菌停止スイッチ
塩素殺菌装置が停止します。 P.19

浴槽殺菌スイッチ
浴槽の殺菌スイッチ。 P.19

薬液補充ランプ
薬液の残りが少なくなると点灯します。 P.21

ろ過 切スイッチ
ろ過装置が停止します。 P.18

ろ過 入スイッチ
ろ過装置が作動します。 P.18

組み合わせ

LA-400 構成

・浴　　槽　　LA-400H：　・・・１台

・入浴用車椅子　LA-200C：　・・・２台

◆浴槽の種類

	グリーン	ピンク
浴槽（右扉）	LA-400RGH	LA-400RPH
浴槽（左扉）	LA-400LGH	LA-400LPH

※浴槽のカバー色はＧ(グリーン)とＰ(ピンク)の他にオプションカラーとしてＲ(ワインレッド)、Ｂ(ベージュ)、Ｖ(バイオレット)があります。

◆周辺装置(別売り)

入浴用車椅子　　・・・・・LA-200C

チェアリフター　　・・・・・LA-20LF

浴槽と入浴用車椅子を組み合わせて使用します。

操作方法については、各々の **取扱説明書** をご覧ください。

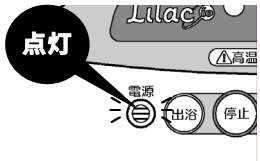
ご使用になる前に

ご使用前に本製品について P.31 の始業点検項目にもとづき、始業点検を実施してください。またこれ以外でも部品が破損しているなど、日頃お使いになられていたときとは違う異常を感じましたら、本製品を使用せずに、電源を切って最寄りの営業所にご連絡ください。

破損、異常を感じたままのご使用は、危険ですから絶対におやめください。

電源

使用前に必ず浴室の浴槽用電源のブレーカーを点検してください。浴室の浴槽用電源を入れ、浴槽操作部の電源ランプ類が点灯していることを確認してください。



給湯水圧

入浴装置に供給される湯及び水の適正使用圧力は120～150kPa(約1.2～1.5kg/㎠)です。圧力比は変動を含んでも最大 2：1 です。適正範囲内でご使用ください。

> **警告　適正圧力及び圧力比範囲となるよう管理**
>
> 適正範囲を外れると、給湯やシャワーの湯温が急変することがあり、入浴者及び介助者がやけどをする恐れがあります。

入浴剤・薬液の使用

✹ 入浴剤について

入浴剤は使用上の注意をよく読んで、浴槽(FRP)や配管等に悪影響を及ぼさない製品を使用してください。ただし、粉末状の入浴剤は、溶け残ったものが配管内に付着しますと故障の原因になりますので、使用しないでください。

✹ 薬液について

本製品の塩素殺菌装置は、次亜塩素酸ナトリウム(1.5%溶液)専用です。他の薬液を使用したり、他の薬液と混ぜて使用しないでください。

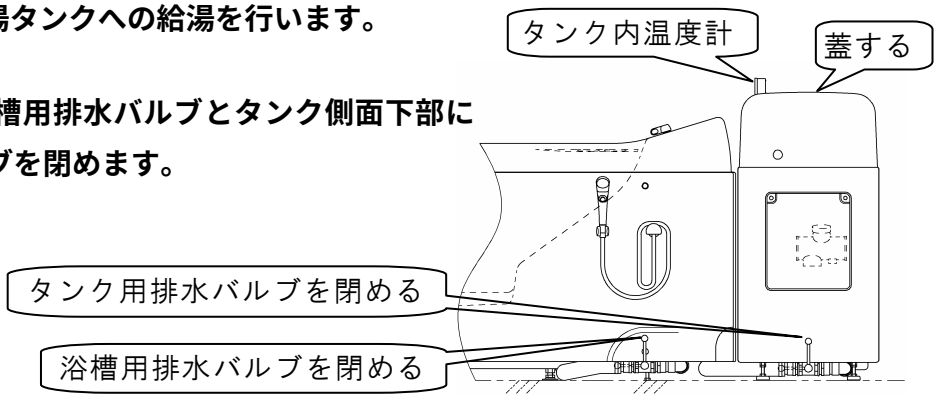
推奨品：㈱オーヤラックス製「ピューラックス」の４倍希釈液

> **危険　次亜塩素酸ナトリウムは酸性の製品と一緒に用いない**
>
> 人体に有害な塩素ガス等の発生の恐れがあります。

各部の操作

タンクへの給湯操作

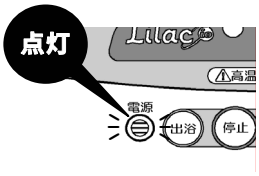
入浴用車椅子が浴槽内にない状態（扉シール及び底面シールが開放された状態）で貯湯タンクへの給湯を行います。



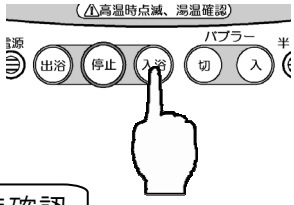
1 浴槽側面下部にある浴槽用排水バルブとタンク側面下部にあるタンク用排水バルブを閉めます。

2 タンクに蓋をします。

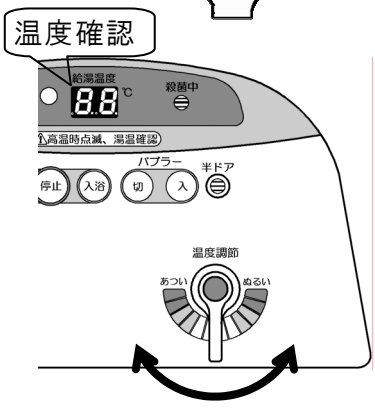
3 浴室の元電源を ON にして、浴槽操作部の電源ランプが点灯していることを確認します。



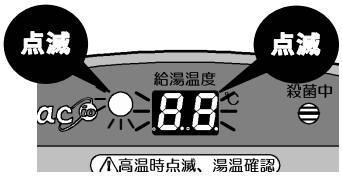
4 浴槽操作部の入浴スイッチを押して、貯湯タンクに給湯を開始します。



5 給湯温度の調節は浴槽操作部の給湯温度計を見ながら給湯ミキシングのレバーを動かして行います。



温度が 44℃以上の場合、給湯温度計のデジタル表示部と高温警告ランプが点滅して温度が高いことを知らせます。



6 タンク内の水位が所定の位置になると給湯は自動停止します。

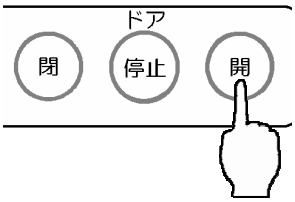
ご注意

安全装置(湯温管理システム)の働きにより貯湯タンク内の湯温が約 46℃以上ある場合、浴槽への送湯を自動停止させますが（P.14 参照）、貯湯タンクへの**給湯時**にも湯温には注意してください。

扉の開閉操作

● 扉を開ける

浴槽のフチにある扉[開]スイッチを押します。扉は自動的に開き、約 90 ° の位置で止まります。

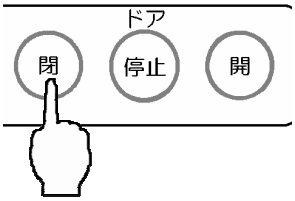


参考 浴槽の元電源を ON にした後、約 15 秒間は機器の立ち上げ時間のため、扉は開きません。

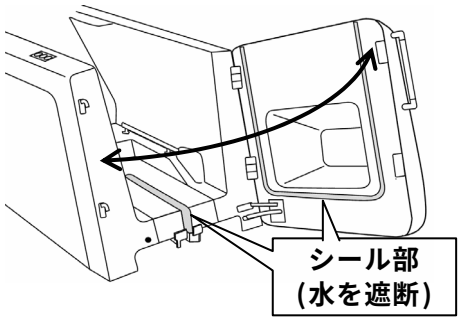
● 扉を閉める

1 入浴用車椅子を浴槽内に入れ、底面シールが閉まったことを確認します。

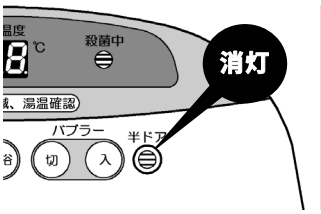
2 扉[閉]スイッチを押します。



3 扉の把手を持って軽く閉じ側へ引くと、扉は自重によりゆっくりと閉まります。

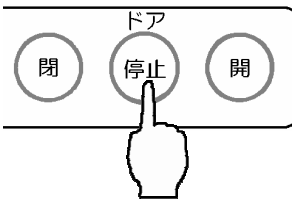


4 扉が閉まると、扉ロック及びシール機構が作動し、浴槽操作部の[半ドア]警告ランプが消えます。入浴（貯湯タンクからの送湯）が可能となります。



● 扉を停止

扉を開くとき、または閉じるときに危険な場合など[停止]スイッチを押すと、扉の自動開閉が停止します。



⚠ 警告　扉を開閉するときは周囲を確認し、入浴者の手足に注意

扉の動作範囲内に人や障害物があると、事故の原因となります。また、足先や手先が挟まれると、けがをする恐れがあります。

● 入浴休止・終了

１日の入浴作業の終了や昼休みなどで入浴作業を休止する場合は、以下の操作をしてください。浴槽の中へ人が入ったり、シールを傷付けることを防止します。

1 入浴用車椅子を浴槽の外へ退出させます。

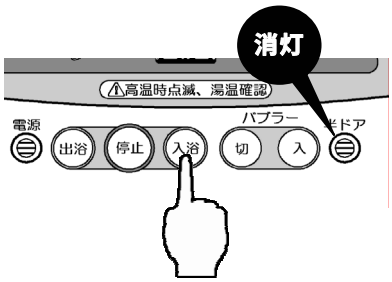
2 片手で扉[閉]スイッチを押し続けながら、扉を閉めます。

3 扉は閉の状態となり、ロックされます。（シールは作動しない）

⚠ 注意　入浴しないときは、扉シール及び底面シールを作動させない

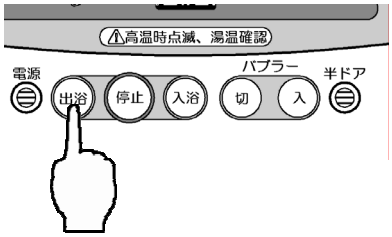
浴槽 ⇔ 貯湯タンク間の送湯

● 貯湯タンク → 浴槽



1 入浴用車椅子を浴槽内に入れ、扉を閉じると半ドア警告ランプが消えます。
2 浴槽操作部の入浴スイッチを押すと、貯湯タンクから浴槽内へ送湯されます。
3 浴槽内の水位が所定の位置になると、送湯は止まります。

● 浴槽 → 貯湯タンク



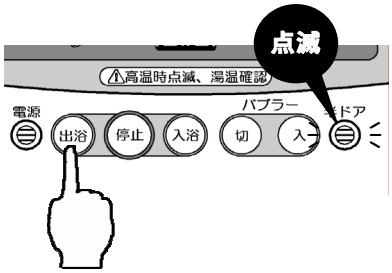
出浴スイッチを押すと浴槽内から貯湯タンクへ送湯され、浴槽内の湯がなくなると送湯は止まります。

● 送湯の停止

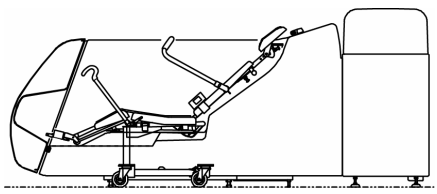
送湯を途中で停止する場合は、停止スイッチを押します。

● 送湯の自動停止

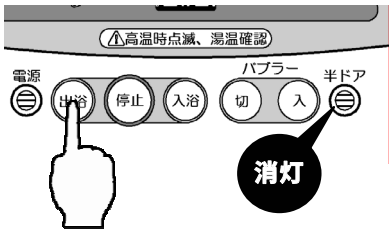
この製品は湯温管理システムを内蔵しており、湯温異常をお知らせします。



1 貯湯タンク内の湯温が約 46℃以上の場合、タンクから浴槽への送湯が止まり、浴槽操作部の半ドア警告ランプが点滅します。
2 浴槽内に湯があるときは、出浴スイッチを押してタンクへ湯を戻します。（P.15 参照）
3 浴槽内に湯が無い状態で、扉を開けて入浴者を浴槽外へ出します。



4 入浴者を乗せずに車椅子を浴槽に入れ、扉を閉めます。
5 タンク内の湯に水を加え、適温にして入浴スイッチを押します。
6 タンク内の湯温がまだ高いときは、浴槽に湯が貯まる前に送湯が止まります。もう一度 5 からやり直してください。
7 送湯されることを確認したら、送湯を停止して出浴スイッチを押します。



8 タンクへ湯が戻ったら、半ドア警告ランプが消えたことを確認します。
9 消えていないときは、もう一度 5 からやり直してください。
10 消えていたら、扉を開け、車椅子を出して、入浴作業を再開してください。

● 貯湯タンク→浴槽へ送湯中(入浴)に停止し、入浴者を浴槽外に出す場合

■ 浴槽の排水栓の深さ以上に湯があるとき…

貯湯タンクへ送湯はできますが扉は開きません。

出浴スイッチを押してください。

■ 浴槽の排水栓の深さまで湯がないとき…

貯湯タンクへ送湯はできませんが扉は開きます。

⚠注意　扉を開けるとき、流れ出る湯に注意

⚠警告　・送湯前に、必ず手と温度計で貯湯タンクの湯温を確認

確認しないで入浴スイッチを押すと、温度センサー等が故障した場合、高温の湯が止まらないで浴槽に送湯され、入浴者にやけどを負わせる恐れがあります。

特に、**午前又は午後の最初の入浴者の場合**は、必ず貯湯タンクの蓋を開けて手で湯温を確認してください。

・半ドア警告ランプが点滅し送湯が停止したら、入浴者を浴槽外に出す

出さないまま入浴スイッチを何度も押すと、高温で浴槽に送湯されて入浴者がやけどをする恐れがあります。

・浴槽→貯湯タンクに送湯するときは、差し湯を止める

差し湯を高温にしている場合があり、浴槽内の湯が少なくなると入浴者に直接かかり、やけどをする恐れがあります。

⚠注意　浴槽へ送湯するときは、タンクの蓋の上に物を置かない

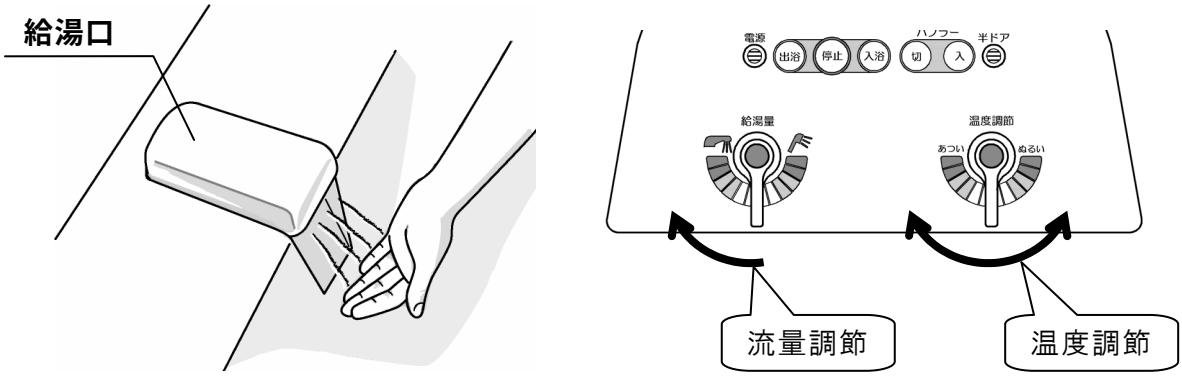
参考

・浴槽→貯湯タンクへ送湯中(出浴)に浴槽内の残り湯が排水栓以下の深さになったときに送湯を停止すると、再度出浴スイッチを押してもタンクへの送湯はできません。この場合は、入浴スイッチを押し、排水栓より上に湯面が上昇したら停止スイッチを押し、その後出浴操作をしてお湯をすべてタンクへ戻してください。

・半ドア警告ランプが点灯している間は、扉閉じ操作，あるいはシール操作が完了していないので、貯湯タンク→浴槽に送湯されません。

差し湯操作

浴槽内の湯温の低下を防止したり、オーバーフローから垢や汚れを流し出すために差し湯が行えます。差し湯の流量調節は、給湯・シャワー切替レバーを給湯側に回して行ない、温度調節は給湯ミキシングで行います。



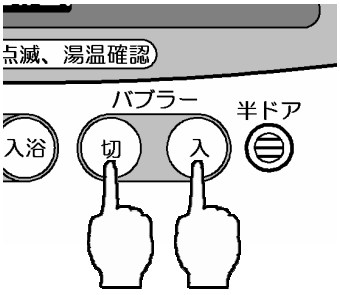
警告　差し湯をするときは、給湯温度計と手で湯温を確認

熱いと、やけどをする恐れがあります。また湯の出し始めや温度設定をした後は温度が安定していない場合があるので、しばらく湯を流して、温度を確認してください。

注意　差し湯が終わった後は、必ず給湯ミキシングを適温に戻す

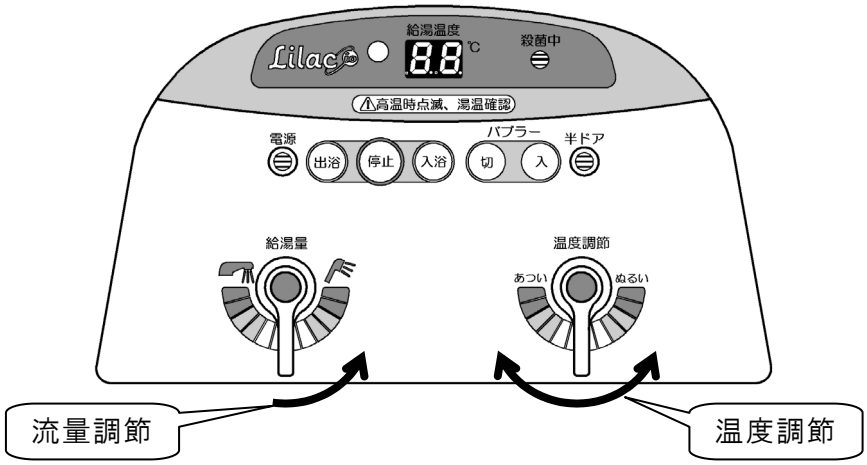
バブラー操作

浴槽操作部のバブラー入スイッチを押すと、浴槽の底面から気泡が発生しますので気泡浴として入浴できます。バブラーを停止するときは、切スイッチを押してください。浴槽内に湯が無い状態でバブラーを使用すると水が飛び跳ねるので、浴槽内に湯がある状態でバブラーを使用してください。



シャワー操作

•ハンドシャワーの流量調節は、給湯・シャワー切替レバーをシャワー側に回します。温度調節は給湯ミキシングで行います。必ず介助者の方が手で適温であることを確認してから入浴者へシャワーを掛けてください。



警告 ・シャワーを入浴者にかける前だけでなく使用中も絶えず手で温度を確認

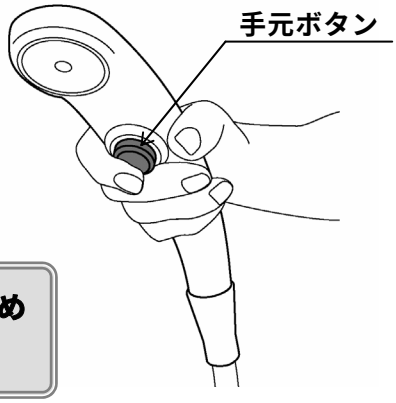
熱い湯が配管内に溜まっている場合がありますので、確認する前に安全な所に吐水して、最初の湯は捨ててください。

・給湯ミキシングはゆっくり回す

・高温でお湯を使用した後は、必ず給湯ミキシングを元に戻す

・シャワーをかけたままにして入浴者から離れない

•ハンドシャワーは手元ボタンを押すごとにシャワーのON/OFF を切り替えることができます。



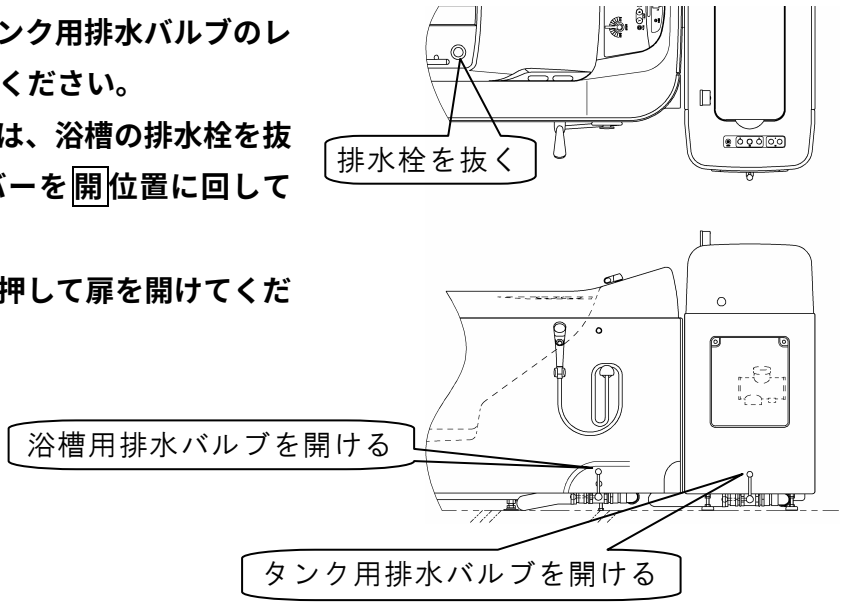
注意 使用後は給湯・シャワー切替レバーで湯を止めてから、シャワーホース内の加圧水をすてる

排水

排水は貯湯タンクにあるタンク用排水バルブのレバーを開位置に回して行ってください。

浴槽内の湯を排水する場合は、浴槽の排水栓を抜き、浴槽用排水バルブのレバーを開位置に回して行ってください。

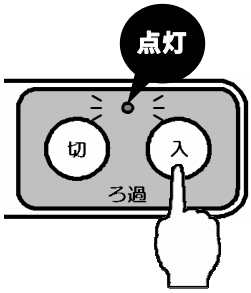
排水後は、扉開スイッチを押して扉を開けてください。



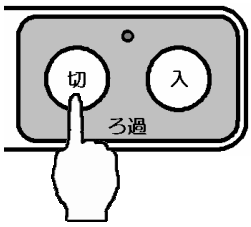
ろ過装置の操作

ろ過装置はタンク内の湯の循環ろ過を行います。入浴作業中はろ過装置を作動してください。

- 貯湯タンク操作部にあるろ過入スイッチを押すと、スイッチ上部の赤い表示ランプが点灯して、ろ過装置が作動します。



- ろ過装置を停止する場合は切スイッチを押してください。



- 貯湯タンクや浴槽内の湯の排水等を行った場合に、タンク内の水面がタンク底部の吸入口の高さより低くなると、ろ過装置は自動的に停止します。この場合には、タンクに給湯を行い、吸入口の高さより水面が高くなったところで再度ろ過入スイッチを押してください。

塩素殺菌装置の操作

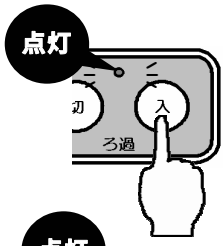
本製品内蔵の塩素殺菌装置は、浴槽の殺菌と浴槽水(お湯)の殺菌が行えます。

浴 槽 殺 菌：貯湯タンク湯量に対して約 0.7ppm 分の量の薬液をタンク内に吐出し、浴槽とタンクと入浴用車椅子の殺菌を行うものです。
毎日の入浴作業終了後に行うことをお奨めします。

浴槽水殺菌：貯湯タンク湯量に対して約 0.3ppm 分の量の薬液をタンク内に吐出し、浴槽水(お湯)の殺菌を行うものです。昼休み時間（菌の増殖を押える）や、失禁等による湯の入れ替え後に行ってください。

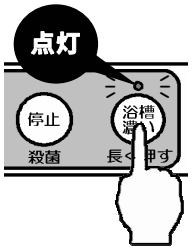
✹ 浴槽殺菌の操作

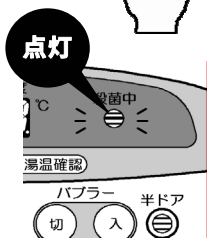
1 入浴用車椅子を通常の入浴と同じように浴槽にセットして扉を閉めます。



2 貯湯タンク操作部のろ過 入 スイッチを押して、ろ過装置を作動させます。

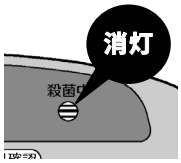
3 貯湯タンク操作部の 浴槽濃い スイッチをスイッチ上部の赤い表示ランプが点灯するまで長押し(約４秒)すると、浴槽操作部の 殺菌中 ランプが点灯して浴槽の殺菌を開始します。





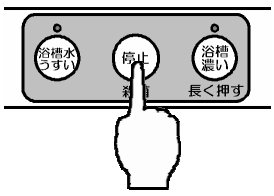
殺菌は… 「タンク内に薬液の吐出」→「浴槽への送湯」→「バブラーによる攪拌(２回)」→「タンクへの送湯」→「ろ過ストレーナーの逆洗浄」の工程が自動で行われます。

4 浴槽の殺菌が終了しますと、浴槽濃い スイッチ上部の表示ランプと 殺菌中 ランプが消灯します。
（浴槽殺菌の所要時間は、約 11 分です）



5 浴槽殺菌の全工程終了後、タンク用排水バルブで湯を排水し浴槽内の車椅子も取り出してください。

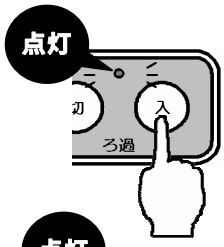
6 浴槽殺菌を途中で停止する場合は、タンク操作部の 停止 スイッチを押すと動作が停止します。停止後、再度 浴槽濃い スイッチを押すと浴槽殺菌の最初の工程から始まります。



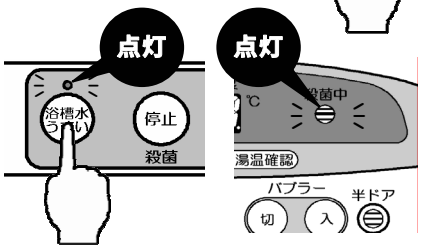
ご注意

- 殺菌工程の送湯中に殺菌 停止 スイッチを押した場合は、送湯動作の終了後に浴槽殺菌は停止します。
- 浴槽殺菌を途中で停止して再開するとき、浴槽殺菌は最初の工程から始まりますので、浴槽内に湯がある場合はタンクに湯を戻してから再開してください。
- 浴槽への送湯途中でタンク内の湯量が足りなくなりますと動作が途中で停止してしまいますので、浴槽殺菌はタンク内に湯が満タンの状態で行ってください。

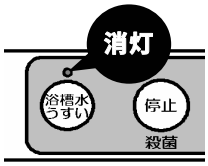
❁ 浴槽水殺菌の操作



1　貯湯タンク操作部のろ過 入 スイッチを押して、ろ過装置を作動させます。



2　貯湯タンク操作部の 浴槽水うすい スイッチを押すと、スイッチ上部の赤い表示ランプと浴槽操作部の 殺菌中 ランプが点灯して、薬液がタンク内の湯の中に吐出されます。



3　薬液の吐出が終了しますと、 浴槽水うすい スイッチ上部の表示ランプが消灯します。貯湯タンク内の湯はろ過装置により攪拌されますので、ろ過装置は運転したままにしてください。

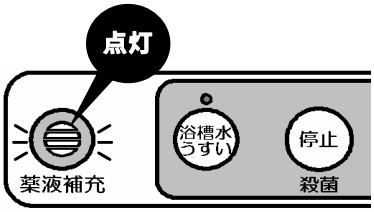
4　殺菌中 ランプは殺菌操作の約１時間後に消灯します。再度浴槽水殺菌を行う場合は、このランプ消灯後に行ってください。薬液の濃度が必要以上に濃くなることを防止するため、 殺菌中 ランプ点灯中は浴槽水殺菌が行えません。

参考　殺菌中 ランプ点灯中に、失禁等による湯の交換を行い浴槽水の殺菌が必要になった場合は、電源を入れ直すことにより浴槽水殺菌の操作が可能になります。

参考　「公衆浴場における衛生等管理要領について」　（抜粋）
厚生省(現厚生労働省)通達　（生衛発第 1811 号、H12.12.15）

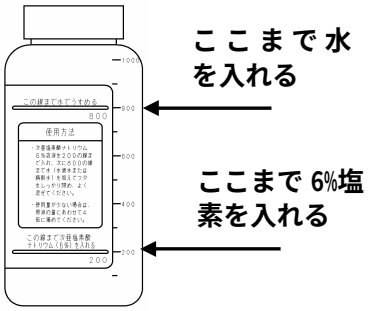
適用の範囲：公衆浴場及び浴場業
・浴槽の清掃は毎日、消毒は月一回以上行うこと。ろ過装置付きの場合は、ろ過部の消毒及び逆洗を週一回以上行うこと。
・浴槽水の消毒に用いる塩素系薬剤の濃度は、遊離残留塩素濃度を１日２時間以上 0.2～0.4 mg/ℓ (ppm)に保つことが望ましい。

● 薬液の補充



薬液が少なくなると、貯湯タンク操作部の薬液補充ランプが点灯します。点灯した場合は、速やかに薬液を補充してください。

補充の際は、後述の「薬液取扱いの注意」に従って充分注意し、次の手順で行ってください。



1 電源を切ります。

2 補充薬液を作ります。市販の６％次亜塩素酸ナトリウム溶液を付属の希釈ボトルの 200 の線まで入れ、水道水または精製水を 800 の線まで加えて４倍に希釈し 1.5%溶液を作ります。

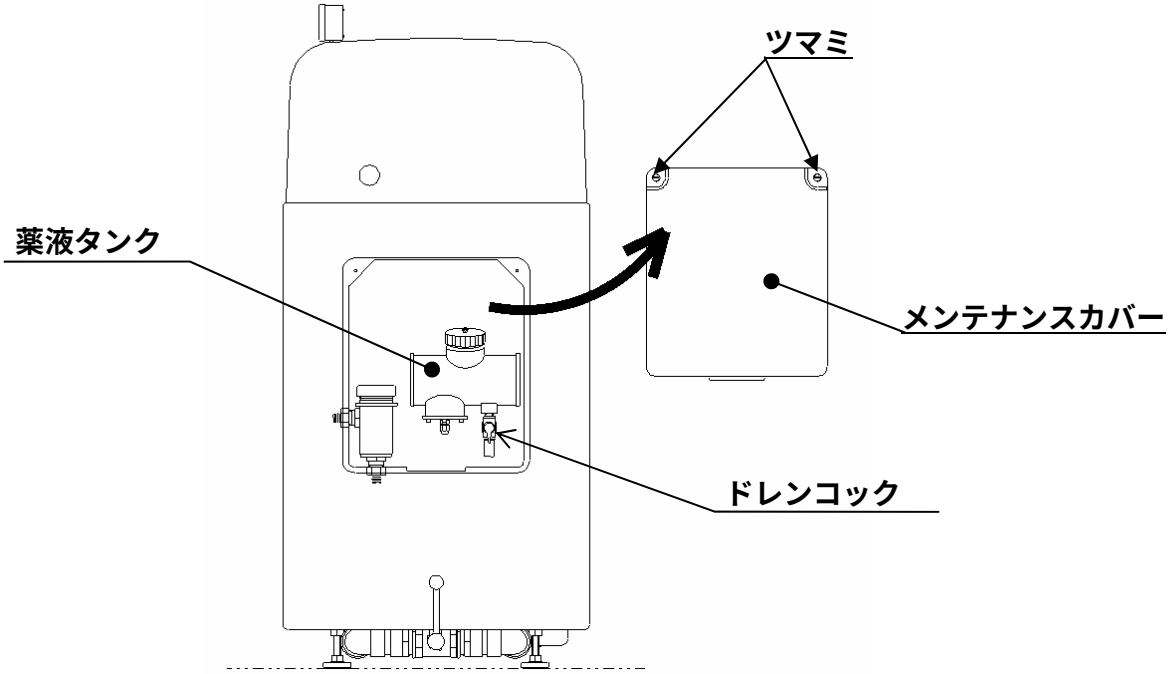
3 メンテナンスカバーのツマミを左に回して、カバーを開けます。

4 薬液タンクの蓋を左に回して開けます。

5 2 で希釈した薬液をこぼさないように薬液タンクに入れます。

6 薬液タンクの蓋を右に回して閉めます。

7 メンテナンスカバーを下側から差し込み、ツマミを右に回して閉めます。



参考 薬液タンクの容量は、薬液補充ランプが点灯してから補充する場合は 800cc 入る容量になっています。

⚠注意　・薬液補充の際は注意する

・十分に換気を行い、保護具（ゴム手袋）を使用してください。

・浴槽を最下位まで下げた状態で行ってください。上げたままだと、こぼれたときに飛散します。

・周囲に薬液がこぼれた場合は水でよく洗い流してください。床やフレーム等の変色や錆の原因となります。

・空の容器は、よく洗い流して処理してください。

・補充薬液は濃度が 1.5%のものを使用する

・使用期限内のものを使用する

ご注意

薬液タンク内の薬液も期限が過ぎたら、タンク下のドレンコックを開き、タンク内の薬液を排水して、新しい薬液を補充してください。

「薬液取り扱いの注意」

薬液は容器に書かれている取り扱いの注意をよく読んでお使いください。

⚠危険　　酸性の製品の近くに置いたり、一緒に用いない

人体に有害な塩素ガス等の発生する恐れがあります。

⚠警告　・誤って薬液を飲んだ場合、応急処置後、医師に相談する

万一飲み込んだときは吐かせずに多量の水や牛乳を飲ませてください。

・薬液が目に入った場合は、応急処置後、医師に相談する

万一目に入ったときはすぐにきれいな水で 15 分以上洗い流してください。

⚠注意　・薬液が誤って人体または衣服についた場合は、すぐにきれいな水で洗い流す

・床にこぼした場合はすぐに洗い流す

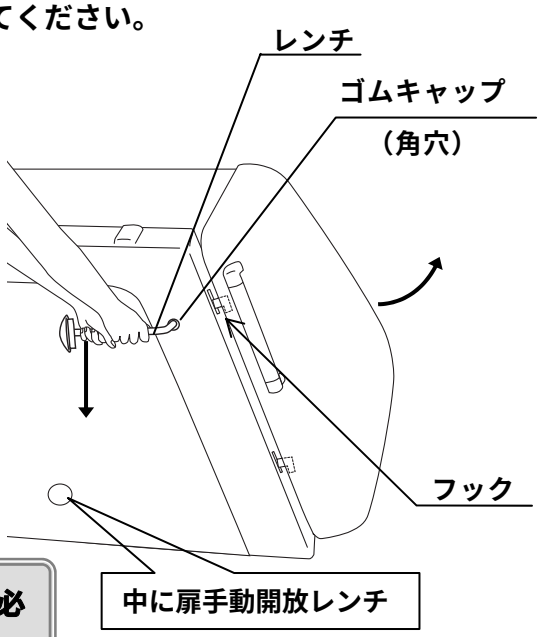
・薬液の排出の際は換気をしながら注意する

非常時の操作

● 扉手動開放の操作

入浴中、停電または故障により装置が動かなくなったときは、以下の手順で扉を開放し入浴者を浴槽から出して、入浴作業を中止してください。

1 排水栓，浴槽用排水バルブを使用して、浴槽の湯を完全に排水してください。
2 浴槽側面下のゴムキャップを外して、扉手動開放レンチを取り出してください。
3 浴槽フック横のゴムキャップを外し、角穴にレンチをさし込み、下へ力強く押し下げてください。フックが外れます。
4 扉の把手を持って手前に引いて、ゆっくり開けてください。



⚠警告　非常時は扉フックを解除する前に必ず浴槽内の湯を完全に排水する

● 急速排水

失禁等により浴槽内の湯をすぐに排水したい場合
浴槽内の排水栓を抜き、貯湯タンクにある急速排水スイッチを押す。
排水後は、扉開スイッチを押して扉を開け、車椅子を浴槽外に出します。
急速排水を行なった後は、一旦電源を入れ直してから入浴作業を行なってください。
電源を入れ直さない場合、再度失禁等が発生したときに急速排水が行なえません。

⚠警告　急速排水するときは、急激な湯の流出に注意
浴槽底面から多量の湯が一度に放出されるので、入浴者の状態や介助者の足元に注意してください。

⚠注意　・排水があふれないように注意

・失禁等の場合、排泄物を取り除いてから排水する
衛生管理上や配管の目詰まり防止のため、湯はタンクに戻さず排水してください。

・急速排水の完了を確認してから扉を開ける
浴槽に湯が残っていると浴室に流れ出し、事故の原因となります。

入浴･出浴の手順

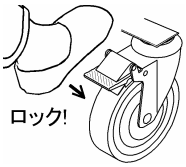
◎入浴・出浴の操作は“各部の操作”の項の注意事項に注意しながら行ってください。

1 貯湯タンクへの給湯

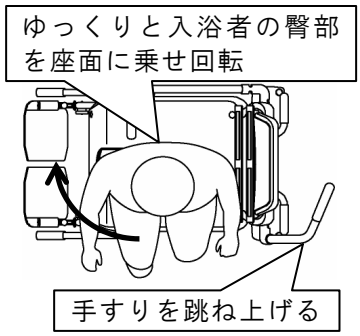
貯湯タンクへ給湯を行います。タンク内の湯温が約 46℃以上になると湯温管理システムが作動して、入浴操作が出来ませんので注意してください。

2 入浴用車椅子への移乗

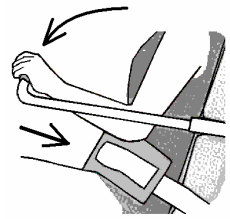
❶ キャスターをロックします。



❷ 移乗側の手すりを跳ね上げ、側方からゆっくりと入浴者の臀部を座面に乗せ、脚部を持ち上げ気味にしながら身体をターンさせフットレストに足を乗せます。



❸ 安全ベルトを必ず掛けて入浴者の身体を保持してください。手すりを戻し、ヘッドレストの位置を調節して洗浄作業等を行ってください。



❹ 背当てをリクライニングさせる場合はリクライニング操作を行い、姿勢に合わせて手すりを下げてください。

⚠警告 ・移乗させるときはキャスターを必ずロック

ロックしてないと、車椅子が移動し事故の原因になります。

・車椅子に乗せたら、必ず手すりを握らせ、ひじを手すりの内側に入れ、安全ベルトを使用する

- 手すりを握っていないと上肢が車椅子の外側に出てけがをする恐れがあります。
- ベルトをしなかったり、固定が適切でないと、身体がずれて落下したり、ベルトで擦れてけがをする恐れがあります。

・安全ベルトを外したときには、入浴者のそばから絶対に離れない

落下する恐れがあります。

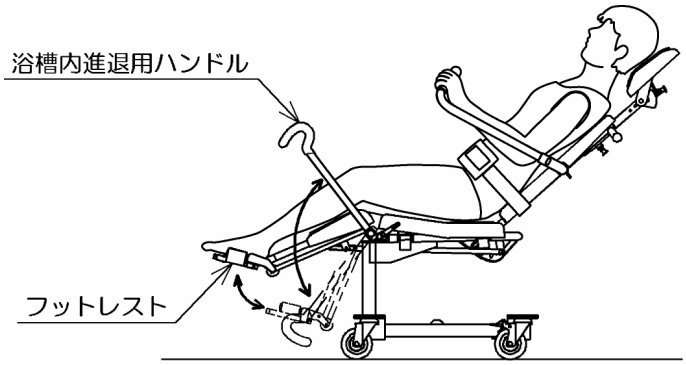
・リクライニング角度を 13°(洗髪作業など)で使用するときは注意

頭部に力をかけたり、足を持ち上げたりすると転倒する恐れがあります。

⚠注意 入浴者と車椅子の接触に注意

移乗時、空いた車椅子を移動させる際に、入浴者と車椅子の接触に注意。

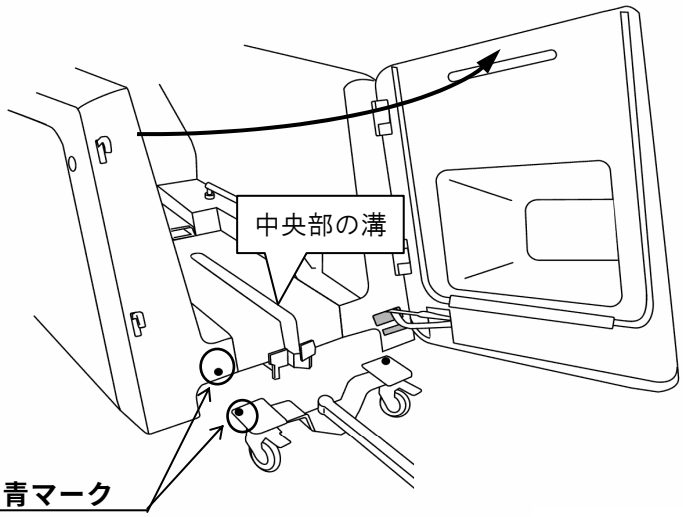
3 浴槽への進入

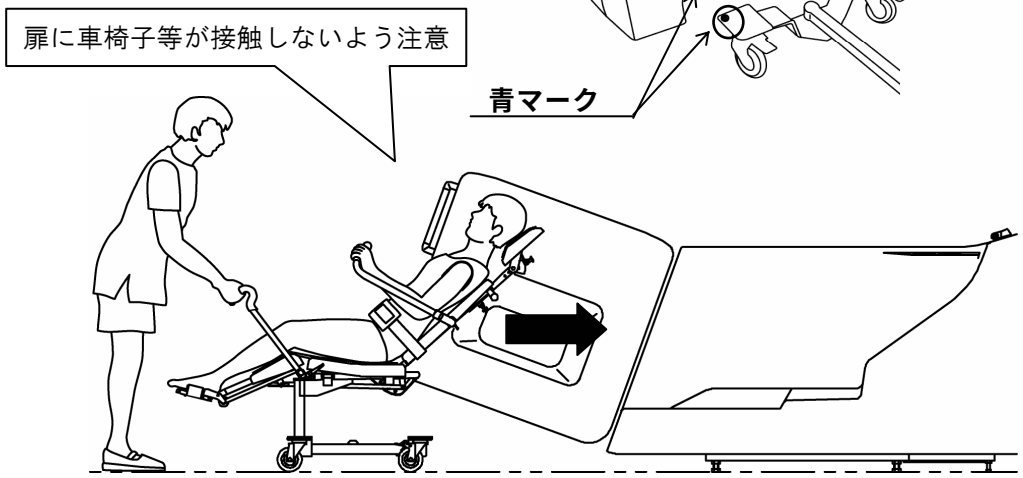


❶ 浴槽内進退用ハンドルを使用してフットレストを持ち上げます。

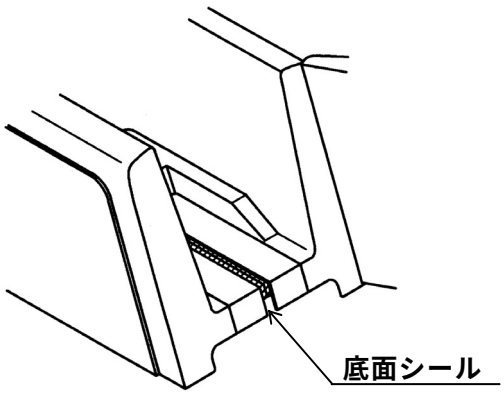
❷ 扉開スイッチを押して浴槽の扉を開放します。

❸ 入浴用車椅子を背部から浴槽の中へ進入させます。
入浴用車椅子と浴槽前面下部の青マークを合わせるようにしながら、浴槽の中央部の溝に入浴用車椅子の支柱が入るように押します。



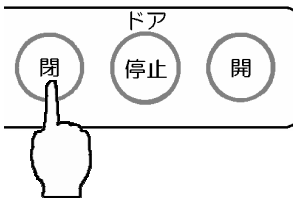


❹ 入浴用車椅子が所定の位置に達すると自動的に底面シールが作動し、入浴用車椅子の支柱をはさみ込んで固定します。



⚠ 注意　車椅子を進入させるときは、底面シールに足先が挟み込まないように注意

4 扉の閉操作



❶ 扉閉スイッチを押して、扉を閉めます。

❷ 扉が閉じて浴槽操作部の半ドア警告ランプが消灯しますと送湯が可能になります。

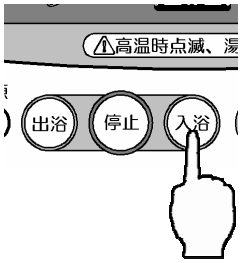
⚠警告　扉を閉じるときは挟み込みに注意

入浴者の足先や手先が挟み込まれると、けがをする恐れがあります。

5 貯湯タンクから浴槽への送湯

❶ 送湯を始める前に、給湯・貯湯温度計と手で貯湯タンクの湯温を確認します。

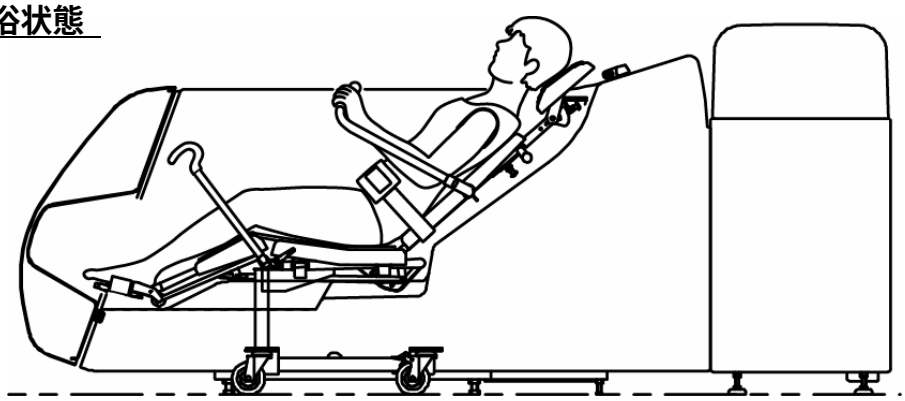
❷ 浴槽操作部の入浴スイッチを押して送湯を始めます。
送湯は所定の湯量になりますと自動で止まりますが、入浴者の体格等に合わせて途中で止める場合は停止スイッチを押してください。



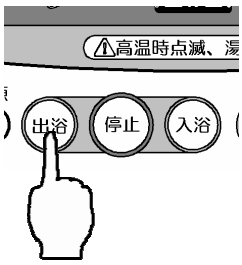
⚠警告　入浴中の入浴者の状態に注意

水没等がないように、常に観察してください。

入浴状態



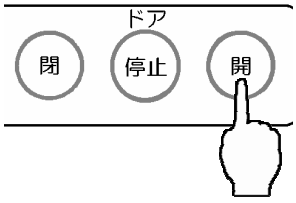
6 浴槽から貯湯タンクへの送湯



(入浴時間終了後)

浴槽操作部の出浴スイッチを押すと浴槽内から貯湯タンクへ送湯され、浴槽内の湯がなくなると送湯は自動停止します。

7 扉の開操作

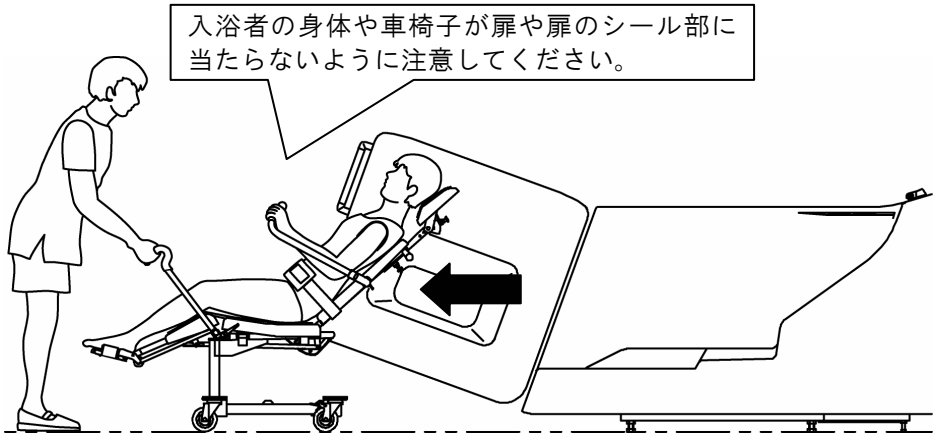


浴槽操作部の扉開スイッチを押して扉を開けます。扉は自動的に開き、約 90 ° の位置で停止後、浴槽底面シールが自動で解除されます。

8 入浴用車椅子の退出

❶ 入浴者が手すりと安全ベルトを使用しているか確認します。

❷ 入浴用車椅子の浴槽内進退用ハンドルを握り、入浴者ごと浴槽の外へ引き出します。

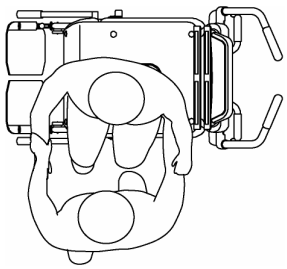


❸ 入浴用車椅子は扉の近辺から離れた位置に停止させ、必ずキャスターをロックしてから、フットレストを降ろします。

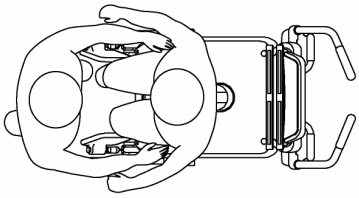
❹ シャワーを掛けたり、清拭作業を行います。

❺ 入浴者を入浴用車椅子から降ろします。

- **左または右側方から降ろす場合**
  フットレストを降ろし、手すりをはね上げて、入浴者の足を左または右側方へ回して介助しながら立ち上がらせます。

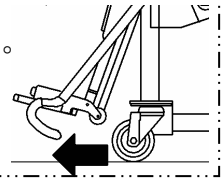


- **前方から降ろす場合**
  フットレストを外側へ跳ね上げて、前方から介助しながら立ち上がらせます。



ご注意

車椅子後部が持ち上がることがありますので注意してください。
前輪２輪のキャスターがフットレストに近づくようにキャスターの首を振らせてから降ろすと安定性が増します。



⚠警告 ・入浴者をフットレストの上に立たせない

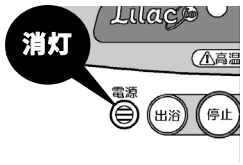
車椅子後部が持ち上がり非常に危険です。

・車椅子を移動するときは、浴室の排水溝蓋の隙間等に注意

キャスターが隙間等に挟まると、車椅子が傾いたり、転倒する恐れがあります。

入浴終了後の操作

- **１日の入浴作業が終了したときや、昼休みのため入浴作業を休止するときは、浴槽の中へ人が入ったりシールを傷付けたりすることを防止するために、扉を閉めてください。**
  〔P.13 入浴休止・終了 参照〕
- **浴室の窓を開けるなど十分に換気をして、浴室の湿度を下げてください。電気部品等の故障の発生を低下させる効果があります。**
- **貯湯タンク側面のタンク用排水バルブのレバーを「開」の位置に回して、タンク内の湯を排水してください。**
- **浴室の元電源を OFF にして、浴槽操作部の電源ランプが消灯していることを確認してください。**



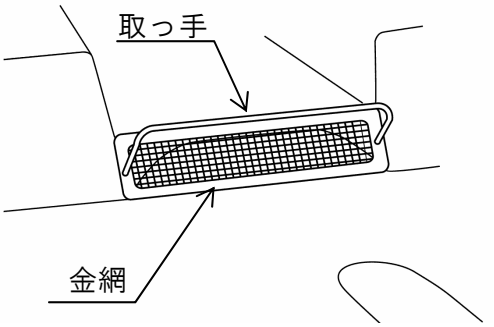
ご注意

浴槽の電源を切るときは、車椅子を浴槽外に出してください。

お手入れの仕方

- 貯湯タンク外面や浴槽及び入浴用車椅子の座面は、たわし等で擦りますと傷が付きますのでスポンジ等柔らかいもので洗浄してください。洗浄後は雑巾で軽く拭き取ってください。また、タンク内側はデッキブラシ等で洗浄してください。
- 浴槽内送湯口の金網は、取っ手を持って手前に引っ張ると外すことができます。引っ掛かった毛髪やごみ等は取り除いてください。掃除後、取り外した金網は必ず送湯口へ差し込んでください。

送湯口詳細



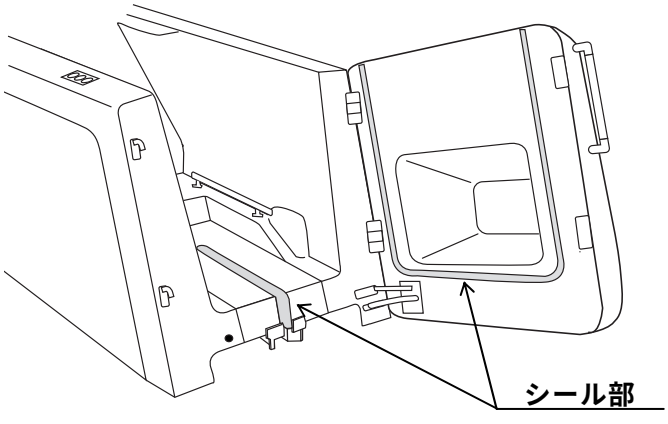
- ホースやシャワー等で洗う場合は、浴槽及び貯湯タンクの内側だけにし、各操作部のスイッチ類、扉や浴槽のカバーの合わせ目には水をかけないでください。また、はねた水が浴槽下部のフレーム等にかからないように注意してください。

⚠注意　・操作スイッチにシャワー等で水をかけない

・シール部に挟まった毛髪やごみは取り除く

❁グリースアップ

- **・底面シール(上面、側面、先端)及び扉シール表面(特に中央突起部)には、週に１度、シリコングリス(信越シリコン G501：付属品)を塗布してください。**
- **・ごみ等が付着している場合は布等で拭き取り、付属のハケで塗布します。(硬い物で塗布するとシールを傷つけます)**
- **・底面シール上面と先端は、浴槽に入浴用車椅子を進入させ、底面シールが入浴用車椅子の支柱をはさんで固定した後、薄く塗布します。**
- **・底面シール側面には、入浴用車椅子が浴槽内にない状態で塗布します。**



このようなときには

症　状	原　因	対　策
電源ランプがつかない	ブレーカーが落ちている	ブレーカーを上げてください
浴槽に送湯できない。または送湯が途中で止まってしまった。(半ドア警告ランプが点滅している)	湯温が高過ぎるため、送湯が自動停止した	P.14“送湯の自動停止”の操作をしてください
給湯温度が一定しない	ストレーナーの目詰まり	最寄りの営業所にご連絡ください
	給湯水の圧力比が使用条件外	圧力比を適正値に調整してください
給湯温度が低すぎる、または高すぎる	ミキシング調整不良	ミキシングを再調節してください
	給湯水の圧力比が使用条件外	圧力比を適正値に調整してください
出浴の際、浴槽内に湯が残っていないのにいつまでも送湯ポンプが停止しない	電気系統のトラブル	最寄りの営業所にご連絡ください

・その他、ご不明な点につきましては最寄りの営業所にご相談ください。

・ご使用中、万一故障が発生したら、直ちに使用を中止してください。

機器の保守・点検について

•本製品については、機器の管理者の方が以下の点検項目にもとづき、必ず始業点検（日常の製品使用前）を実施してください。

•長期間使用しなかった製品を使用再開する場合は、機器が正常に動作するか十分な点検を行ってください。

•点検時に異常が発見された場合は、製品の使用を中止して最寄りの弊社営業所までご連絡ください。

•清掃等の簡単な保守は機器の管理者等によって実施するようお願いいたします。

● 始業点検項目

区分	点検内容	点検方法
（電源投入前）外観	周囲の障害物の有無	目視
	カバー及びドアのガタつき、取付ネジの緩み、脱落	目視 及び、触って確認
	浴槽内・タンク内の汚れまたは、不要物	目視
	給湯口からの湯の漏れ	目視
（電源投入後）機能	電源ランプの点灯	目視
	タンクに給湯中の給湯温度計の温度表示	手をタンク内に入れて湯が適温であることを確認し、表示と比較
	給湯ミキシングバルブの温度調整	高温側と低温側に回し温度表示が変化することを確認
	高温警告ランプの作動	高温側(44℃以上)に回したとき警報ランプが点滅することを確認 **(確認後、40℃前後の適温に戻すこと)**
	給湯完了後の湯温	手でタンク内の湯が適温であることを確認し、表示と比較
	給湯・シャワー切替レバーの作動	差し湯をしているときに切替レバーを給湯側または、シャワー側に回し、切替わるのを確認
	薬液の量	目視 （薬液補充ランプが消えていること）
（車椅子をセット）	扉の開閉	扉の開閉及びシールがスムーズか確認
	底面シールの開閉	車椅子をセットしたときシールの開閉はスムーズか確認

保証とアフターサービス

✹ 保証書と保証期間

- 保証書(別添)はよく読んで大切に保管してください。保証書がありませんと保証期間中でも代金を請求させていただく場合があります。
- 保証期間は、正常な使用状態で故障した場合、本体フレーム及び FRP 部品は 5 年間、それ以外は１年間です。詳しくは保証書をご覧ください。

✹ 修理を依頼される場合

- 修理を依頼されるときは、下記のことをお知らせください。
  - ・機種名　：　*LA-400H*
  - ・お買い上げ年月：　　年　　月
  - ・故障状況(できるだけ詳細に)
  - ・住所，氏名，電話番号
- メーカーより指示のあるとき以外は、決して開けたり分解しないでください。

✹ 定期保守点検契約のお勧め

製品を長期間正常な状態で安全に使用できるように保証期間後の「保守点検契約」の締結をお勧めします。詳しくは「保守点検契約のお勧め」をご覧になるか、弊社最寄りの営業所へお問い合わせください。

✹ 消耗品と損耗品

消耗品（使用により、量などが減少していくもの）

シリコングリス / 薬液（６%次亜塩素酸ナトリウム溶液）

補給は、お客様により実施願います。

損耗品（使用により、磨耗･劣化･変質等が生じ、本来の機能が発揮できなくなるもの）

- **正常な使用において、交換の目安が約２年のもの。**

  シャワーヘッド / 作動油 / 薬液ポンプの継手配管 / 薬液チューブ

- **正常な使用において、交換の目安が約３年のもの。**

  ミキシングバルブ / シャワーホース / 給湯・給水ホース / 排水ホース / 油圧ホース・チューブ / 温度センサー / 止水栓パッキン

点検の時期が来ましたら弊社営業所までご用命ください。点検して必要により有償交換いたします。

仕 様

型　　式			LA-400H
浴槽	外形寸法(L×W×H)		2130×1025×1030 ㎜
	浴槽内寸法(L×W×H)		1270(上)～1220(下)×660×670 ㎜
	湯　量（実使用量）		約 430λ（約 370λ）
	質　量		約 450 kg
	材　質	フレーム	スチール、粉体塗装仕上げ
		浴槽・カバー	FRP
	シール部駆動方式		電動油圧式
貯湯タンク	外形寸法(L×W×H)		1425×555×1130 ㎜
	容　量		約 500λ
	質　量		約 70 kg
	材　質		FRP
電　　源			三相 200V30A
消費電力			3.0kVA
機能構成			水処理システム（濾過装置、塩素殺菌装置） 湯温管理システム、気泡発生装置
そ の 他			給湯デジタル温度計(浴槽)、 給湯・貯湯温度計(貯湯タンク)
付 属 品			取扱注意銘板、シリコングリス、ハケ 希釈ボトル

注)都合により予告なく仕様の変更を行う場合があります。